

各ワクチンの特徴

ワクチン名	ビケン (乾燥弱毒生水痘ワクチン)	シングリックス (乾燥組換え帯状疱疹ワクチン)
種別・接種方法	生ワクチン・皮下に接種	不活化ワクチン・筋肉内に接種
接種回数・間隔	1 回	2 回・ 通常、2 か月以上の間隔を置いて2 回接種 ※病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1 か月まで短縮できます。
予防効果	1 年目 6 割程度 5 年目 4 割程度	1 年目～5 年目 9 割程度 10 年目 7 割程度
副反応	注射部位の痛み、腫れ、発赤。 まれにアナフィラキシーや血小板減少性紫斑病など重篤な副反応が現れることがあります。	注射部位の痛み、腫れ、発赤、筋肉痛、全身倦怠感、悪寒、発熱など。 まれにアナフィラキシーなど重篤な副反応が現れることがあります。
予防接種を受けられない方	①明らかに発熱(37.5℃以上)している方 ②重い急性疾患にかかっていることが明らかな方 ③病気や治療によって、免疫が低下している方 ④過去にこのワクチンの成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方 ⑤妊娠していることが明らかな方 ⑥先天性及び後天性免疫不全状態の方 ⑦副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤等の治療中で、明らかに免疫抑制状態の方 ⑧その他、医師が不適当と判断した方	①明らかに発熱(37.5℃以上)している方 ②重い急性疾患にかかっていることが明らかな方 ③過去にこのワクチンの成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方 ④その他、医師が不適当と判断した方
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3 か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6 か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。
予防接種を受ける前に医師への相談が必要な方	①心臓血管系・腎臓・肝臓・血液等の基礎疾患のある方 ②予防接種で接種後2 日以内に発熱、全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がみられた方 ③病気や治療によって、免疫が低下している方 ④このワクチンの成分で、アレルギーを起こすおそれのある方 ⑤過去にけいれんを起こしたことがある方 ⑥過去に免疫不全と診断された方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方 ⑦血小板の少ない方や出血しやすい方 ⑧妊婦又は妊娠している可能性のある方、授乳中の方 ⑨最近1 か月以内に予防接種を受けた方	
他のワクチンとの接種間隔	医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。 他の生ワクチンとは、27 日以上の間隔を置いて接種してください。	医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。